

高知大学農学部構内の植物相

澤 完
(農学部蔬菜園芸学研究室)

Flora of the Faculty of Agriculture, Kochi University

Yutaka SAWA

Laboratory of Vegetable Crop Science, Faculty of Agriculture

Abstract : It was found that over 500 species grew wild on the Kochi University campus in Nankoku City. These plants were 60 families, 218 genera, 322 species, one subspecies, 36 varieties, and nine forms in Dicotyledoneae ; 15 families, 92 genera, 138 species, two subspecies, and 20 varieties in Monocotyledoneae ; two families, two genera, two species in Gymnospermae; and 10 families, 20 genera, 23 species, and one variety in Pteridophyta. In these plants, new species in Kochi Prefecture were as follows: *Artemisia montana* Pampan., *Taraxacum albidum* Dahlst. forma *sulfureum* (H. Koiz.) Kitam., *Taraxacum ceratolepis* Kitam., *Plantago virginica* Linn., *Linaria vulgaris* Linn., *Coriandrum sativum* Linn., *Agropyron tsukushiense* (Honda) Ohwi var. *tsukushiense* Ohwi, *Momordica charantia* Linn., *Mentha piperita* Linn., *Mentha rotundifolia* (L.) Huds., *Perilla frutescens* Britt., *Oenothera tetraptera* Cav., *Viola tricolor* Linn., *Pteris vittata* Linn., *Bromus tectorum* Linn., *Ornithogalum corymbosum* Ruiz et Pav., *Scilla nonscripta* Joffm. et Link., *Clitoria ternatea* Linn., *Crotalaria sessiliflora* Linn., *Fragaria vesca* Linn., *Rubus frondosus* Bigel., *Hedychium coronarium* Koen. Rare species in Kochi Prefecture were as follows : *Taraxacum laevigatum* D.C., *Cuscuta pentagone* Engelm., *Amorpha fruticosa* Linn., *Vicia angustifolia* Linn. var. *minor* (Bertol.) Ohwi, *Vicia sativa* Linn., *Silene gallica* Linn., *Silene gallica* Linn. var. *quinque-vulnera* (L.) Koch., *Spergularia arvensis* Linn., *Valerianella olitoria* (L.) Poll., *Boehmeria nivea* (L.) Gaud., *Acorus calamus* Linn. var. *angustatus* Bess., *Pinellia ternata* (Thunb.) Breitenb. forma *atropurpurea* (Makino) Ohwi., *Anthoxanthum osoratum* Linn., *Lolium hybridum* Hausskn., *Paspalum urvillei* Stend., *Phalaris canariensis* Linn., *Briza maxima* Linn., *Asplenium oligophlebium* Baker.

緒 言

南国市物部の高知大学農学部周辺は古くから稲の二期作地帯として知られ、東は物部川、南は高知空港に隣接し、さらにその南約1kmで太平洋に面した、高知平野のほぼ中央に位置している。

農学部の総敷地面積は35.9 haで、このうち、芝地約2.5 ha及び雑木林約1 haの他、附属農場の水田4.5 ha、畑地0.7 ha、果樹園1.2 ha、牧草地8 ha、及びそれらの通路沿いなどに植物が自生し、或は栽植されている。雑木林の大部分は太平洋戦争時代に建造された、旧高知海軍航空隊の地下壕のある所で、その上に建造物は建てられず、かと言って厚いコンクリートの壁を破壊するには多額の経費を必要とするために現在まで放置されていたため、アキニレを主とした雑木林及びハチク林を形成し、鳥など小動物の格好の棲息地となっている。

昭和26年高知大学創立当時より農学部構内には、ノウサギやイタチの他、ハツカネズミ、クマネ

ズミ、ドブネズミなどのネズミ類、アオダイショウ、シマヘビ、ヤマカガシ、シロマダラ、マムシ(24年間で1頭見つけられている)などのヘビ類などの小動物が棲息している。またスズメ、ムクドリ、ホオジロ、メジロ、モズ、キセキレイ、ヒレンジャク、ヒヨドリ、ウグイス、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ジョウビタキ、ホトトギス、アオバズク、コサギ、ササゴイ、コジュケイなど多くの野鳥が雑木林に飛来し、四季に渡り、いろいろの鳥の鳴き声が聞かれる。10年程前からはキジが雑木林で数年間自然繁殖し、時折ビニールハウス内など、人前に姿を現わしていた。

校内に前述のような放置された雑木林や草地があるため、物部川の旧河川敷の水田地帯の中にある大学敷地としては植物相が豊富である。また農学部は空港に隣接するため帰化植物が多く、従来より、アメリカフウロなどの帰化植物の高知県内への侵入経路の一つとされているほどである。しかしながら現在まで、農学部構内の植物相に関しての詳しい調査は一度もなされていない。そこで地方的な植物相の変遷を知るためにも、できるだけ早い時点で校内に自生する植物を記録して置くことが大切であると考え、本調査を行った。

調 査 方 法

調査は主として1980年より1982年の3年間、四季を通して農学部構内全域について行った。農学部構内に自生する植物としては、その3年間の調査以外に、昭和38年以後標本に作製していた種、及び、フウランやシュンランなど、従来自然繁殖をしていたものの人の手により取り去られたり、或は環境の変化により自然消滅してしまった種についても、記録に止めておけば地域的な植物相の変遷を知る際に参考になるものと考えて記載した。

尚、今回の調査では、校内に栽植されている樹木や、栽培中の園芸植物、或は実験用植物、及び、藻類以下の下等植物などについては調査の対象外とした。

種の同定は、北村四郎他(1957, '61, '64)¹⁾、北村四郎他(1971, '79)²⁾、倉田 悟(1979~'87)³⁾、牧野富太郎(1961)⁴⁾、正宗巖敬(1974)⁵⁾、光田重幸(1986)⁶⁾、日本の植物刊行会編(1969)⁷⁾、沼田真也(1975)⁸⁾、大井次三郎(1978)⁹⁾、大井・中池(1978)¹⁰⁾、長田武正(1972)¹¹⁾、(1981)¹²⁾、佐竹義輔他(1981, '82)¹³⁾、田川基二(1959)¹⁴⁾、高橋秀男他(1984)¹⁵⁾、奥山春季(1977)¹⁶⁾、奥山春季(1982~'84)¹⁷⁾、によったが、イネ科やシダ類など近似種が多く同定の難しい種については、赤澤時之高知女子大学名誉教授に同定していただいた。

学名は主として在来種は大井次三郎(1978)⁹⁾、大井・中池(1978)¹⁰⁾、帰化植物は長田武正(1972)¹¹⁾、(1981)¹²⁾、及び佐竹義輔他(1981, '82)¹³⁾、栽培種は奥山春季(1977)¹⁶⁾によった。

また、赤澤時之(1978)¹⁸⁾、大久保一治(1938)¹⁹⁾、及び山中二男(1978)²⁰⁾の高知県産植物に関するの既報も参考にした。

結 果 及 び 考 察

本調査の結果、高知大学農学部校内に自生する植物として、87科、332属、485種、3亜種、57変種、9品種が確認された。尚、この他に、ササ類、ヌカボ類など未同定のものが4種ある。

校内には年々新しい植物が目止まる反面、その一部はすぐに周囲の草に被われたり、冬の寒波などにより消滅していくものがかなり認められた。特に昭和50年頃より、新しい植物が芝地或は畑地に急に目立ち始めた。その多くは帰化植物であり、その侵入には、昭和49年に校内の農場に放牧地ができたこと、その頃より急激に学生のマイカー族が増えたことなどが、かなり関連性を持っているように思われた。その他にも校内への植物の侵入する方法はいろいろと考えられる。そこで侵

入経路が比較的はっきりしている植物につき、校内に自生するに至ったと考えられる侵入経路を解析した結果、次の16通りの様式に分けられた。

(1) 建物の増築などの際の盛り土、或は芝布や畑地の造成の際の客土により、種子が土と共に運ばれて来たと考えられるもの： コウゾリナ、ヤマジノノギク、ムラサキツメクサ、ヘラオオバコ、ヒメスイバ、アレチマツヨイグサ、コマツヨイグサ、ヤブマオウ、シナダレスズメガヤ。

これらの種は客土前には校内で見られなかったもので、客土1年後にその造成地に出現したものである。即ち、シナダレスズメガヤは昭和53年3月の造成地でその翌年より、コマツヨイグサは昭和57年に道路工事用の余りの砂に、他の7種は昭和56年5月の造成地でその工事の翌年より出現している。

(2) 牧草の種子に混入してきたと思われるもの： アメリカネナシカズラ、オオカラスノエンドウ、ウマゴヤシ、ノハラツメクサ、ハルガヤ、カラスムギ、イヌムギ、ウマノチャヒキ、カモガヤ、ホソムギ、タチスズメノヒエ、ハマヒエガエリ、ヒエガエリ。

これらのものは昭和50年頃より目に付くようになったもので、特にイヌムギ、ホソムギ、タチスズメノヒエは現在校内全域の芝地に繁殖している。他種のもは放牧場周辺で見られるに過ぎない。

(3) 自動車などによる人の移動に伴って種子が運ばれてきたと考えられるもの： これには種子の軽いタンポポ類やノボロギクなど微風によりその種子が車内などに侵入しやすいもの、或は、ヤブシラミやオナモミ、イノゴズチなどのようにその種子が人の衣服に付着しやすい種が多い。

a) 農学部は海岸線より約2 kmの地点にあり、また物部川の河口附近は釣り、海岸散歩、サーフィンなど多くの人々が自動車や自転車により海辺へ行き来するためか、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、ハマダイコン、ハマゴウ、コマツヨイグサなどの海辺植物が大学の敷地に沿って通っている県道13号線の道路沿いの草地などで見掛けられる。

b) 演習林や山野への調査、実習に行った自動車や人により運ばれて来たと考えられるもの： ノアザミ、シコクアザミ、フジバカマ、カンサイタンポポ、オナモミ、ヌスビトハギ、ヒメハギ、イタチハギ、キツネノカミソリ、ササユリ、ヌルデ。

これらは林学科や農学科の建造物の出入口の通路横やそれらの学科近くの駐車場附近、或は旧演習林の車庫附近に見られる。

c) 農学部の学生の8割近くは高知県外出身者であり、四国以外に、九州、中国、近畿地方出身の学生も多く、近年では東海地方出身者も増えて来ている。そして、それら学生の多くはマイカーを持ち、帰郷の際にその自動車で往復するためか、駐車場附近、特に洗車場周辺などで見られるもの： ヤマザトタンポポ、ケンサキタンポポ、アカミタンポポ、セイヨウタンポポ、ブタナ、ノボロギク、ブタクサ、ツボミオオバコ、メハジキ、ホソバウンラン、マンテマ、シロマンテマ。

これらの種は昭和55年頃より出現してきたものが多く、おそらく自動車により運び込まれてきたものであろうと推察している。尚、農学部学生の乗用車の登録台数は昭和57年度は121台で、その後年々増加している。

d) 農学部は飛行場に隣接するため、その乗客などにより侵入したと考えられているもの： アメリカフウロ、セイタカアワダチソウ、アメリカセンダングサ。

アメリカフウロは25年前より見られ、高知県での新産地とされている。セイタカアワダチソウは20年程前に校内の西端の空港に隣接する草地に出現したが、その当時、高知県内の自生地は少なく南国市内では国鉄後免駅近くの線路端に僅かに見られたただけであった。農学部のものはおそらくそれらとは別に、飛行機により持ち込まれたものと考えている。

(4) 鳥により運ばれて来たと考えられるもの： クコ、サンゴジュ、ネズミモチ、イボタノキ、

ヤブニッケイ、ヤツデ、ツタ、ツルウメモドキ、マサキ、マユミ、ノブドウ、アケビ、ナワシログミ、ハゼ、ノイバラ。

これらのものは主として雑木林の林床及びその周辺、或は竹林中で見られるもので、飛来した鳥により伝搬してきたものであろう。オオヨモギはハチク林の中ほどで4個体自生していたが、そこは全く人の入らない所であり、おそらく北からの渡り鳥（シロハラ、アカハラ、ツグミなど）により運ばれて来たものと考えられる。又、鳥の休み場となっている裏門の石柱横にクコの自生するものがあるが、これも鳥が種子を運搬して来たものと推察している。

(5) 水田の用水路により上流から運ばれて来たと思われるもの： ミゾカクシ、セリ、ミズタガラシ、タガラシ、キショウブ、ミゾソバ、ホテイアオイ、ヤマアイ、ショウブ、ジュズダマ、クサヨシ、クロクワイ、ミズキンバイ、アメリカミズキンバイ、ウスゲ、チョウジタデ、ミソハギ、ヒメミソハギ、ホソバヒメミソハギ。

これらの種は用水路中、或は用水路沿いに自生するもので、おそらく上流より種子が流されて来たものと考えられる。

(6) 風により種子が飛来したもの： キツネアザミ、ダンドボロギク、ヤクシソウなどの多くのキク科植物、ススキなどのイネ科植物の一部の種、フウラン、シュンランなどのラン科植物、ノキシノブ、イノモトソウなどのシダ植物。

これらの種子は落下速度が遅く、風により飛散し易く、特に冬の季節風により飛来してきたのではないかと考えられる。

(7) 栽培植物が逸出したのではないかと考えられるもの：

a) 明らかに実験用植物が逸出したと思われるもの： オオゴンタヌキマメ、チョウマメ、ツクバネアサガオ、ハッカ類、アオジソ、カタメジソ、エイザンスミレ、マルバスマミレ、シコクスミレ、ビオラ・トリカラー、トウガン、スイカ、マスクメロン、マクワウリ、ツルレイシ、オクラ、ツルナ、アカザ、ニラ、シンテッポウユリ、シラン、ミョウガ、カミガモシダ、コモチシダ、モエジマシダ。

これらの種の中で、オオゴンタヌキマメ、オランダハッカ、アメリカハッカ、アオジソ、カタメジソ、アカザ、シンテッポウユリはしだいに繁殖地が拡大し、完全に野生化している。シンテッポウユリは逸出初期の昭和45年頃には、その両親であるテッポウユリ及びタカサゴユリの相方にそれぞれ近い形質のものから、それらの中間型のものまでいろいろと変異が見られたが、最近では純白の花で、葉数が少なく、葉幅の広いテッポウユリ型のもはモザイクウイルス病に弱いためか少なくなり、花被の主脈に赤紫色の縞が入り、葉が線型で葉数の多いタカサゴユリに近い形質のものが多くなった。

b) 実験用植物の植え込み材料に附随して侵入したと考えられるもの： タラノキ、カラスザンショウ、セントウソウ、マツザカシダ。

c) 牧草が逸出したもの： ネズミムギ、シマスズメノヒエ、オートムギ、パスパルム・ノタツム、モロコシ。

これらの種は農場の牧草地に牧草として栽培され始めて3年程して急速に校内に広がり始め、現在ではネズミムギ及びシマスズメノヒエは校内全域で繁殖している。モロコシは隣接する農家の畑より逸出したもの。

d) 校内で栽培されていた園芸植物などが逸出したと考えられるもの： コスモス、キヌガサソウ、セイヨウノコギリソウ、ヒョウタン、ヘチマ、カクトラノオ、ビジョザクラ、センニチコウ、エゾヘビイチゴ、マルバルコウソウ、ルゴウソウ、メキシコマンネングサ、ハナビソウ、ヒナゲシ、アブラナ、ハナダイコン、ミヤシゲタイコン、ムシドリナデシコ、アメリカ

ヤマゴボウ、ソバ、オーニソガラム・コリンボスム、シラー・ノンスクリプタ、コウライシバ、コムギ、オオムギ、イネ、ソテツ、シュロ、センダン、ニワウルシ、ナンキンハゼ、クスノキ、ハリエンジュ。

これらの種のうち、一、二年草本のものは、2～3年で自然消滅してしまうものが多く見られた。

e) 隣接する職員宿舎で栽培していたものが逸出したと思われるもの： シュンギク、フランスギク、オオキンケイギク、キバナコスモス、フレンチ・マリーゴールド、ヒマワリ、アマチャヅル、アカジソ、ツキミソウ、ホオズキ、ハナダイコン、フヨウ、ブラック・ベリー、カジイチゴ、オシロイバナ、オオベニガシワ、カミヤスリ、ハマオモト、スイセン、ヒメヒオオグスイセン、ハナニラ、アマドコロ、ハナカンナ、ジンジャー、セイヨウダンチク。

これらのものは宿舎地帯との境いの草地及びその間の道路沿いで主として見られるものである。

f) 職員宿舎で飼育されていた小鳥の飼料から逸出したと思われるもの： カナリークサヨシ。

これもやはり宿舎地帯との境界の草地で今年数本見られた。

g) 野生種の自然交配種と考えられるもの： オオエノコロ (アウ×エノコログサ)、ネズミホソムギ (ホソムギ×ネズミムギ)、キバナシロタンポポ (カンサイタンポポ×シロバナタンポポ)。

キバナシロタンポポは昭和56年より出現し始め、昭和63年になり、かなり距離的に離れた8個所で20株程見られるようになった。当初はカンサイタンポポとシロバナタンポポが混生する厚生会館入口近くで、3個体が50cm～1m間隔で自生し、3年間はその他の地域では見られなかったが、最近では4号館西側やシステム園芸研究施設の西側などでも見られるようになった。尚、それらの自生地はいずれもシロバナタンポポとカンサイタンポポが混生している所であり、キバナシロタンポポはその花色及び総苞の形質がカンサイタンポポとシロバナタンポポとの中間を示し、個体により多少の変異が観察され、自然交配種の可能性が強い。しかし核型分析、或は人工交配によるF₁個体の形質調査は行っておらず、後出の植物目録では一応シロバナタンポポの品種とした。

今回の調査により高知大学農学部校内に予想以上の植物が自生することが解ったが、特に高知県産として従来未報告のものが22種認められた。これらは前述のように、職員や学生のマイカーの普及によるところが大なる原因と考えられる。このことは近年著名な観光地で帰化植物が多く見られるようになったのも、おそらく同じ理由によるものであろう。高知県内として新産地となったものを以下に例挙する。

オオヨモギ (1982年出現、ハチク林中に4株)、キバナシロタンポポ (1982年、厚生会館入口附近に3株)、ケンサキタンポポ (1982年、洗車場附近に2株)、ツルレイシ (1981年より3年間、実験圃場の東西両端の草地2箇所数株)、ツボミオオバコ (1982年、駐車場横の洗車場附近で4株、2年後に消滅、1983年より食堂北側の芝地でも2株、4年後消滅)、ホソバウンラン (1982年より3年間、車庫附近の芝地に3株)、コショウハッカ (1970年頃より、ガラス室周辺に多数)、マルバハッカ (1970年頃より、年々自生場所が移動するが、現在は4号館西側の道路横に2株)、カタメジソ (1980年より、ガラス室周辺、道路端などに散在)、コエンドロ (1982年より3年間、3号館西側入口の北出口の横で2株、その後1～2株出現したが消滅)、ツキミソウ (1970年頃より、職員宿舎近くの道路端で年々移動しながら細々と咲き続けている)、ピオラ・トリカラー (1979年よ

りガラス室附近に毎年2~10株程咲き続けている), チョウマメ (1978年から2年間, ガラス室附近に逸出し美しい花を咲かせていたがその後消滅), オオゴンタヌキマメ (1978年頃より野生化し, 現在は数個所で多数繁殖している), エゾヘビイチゴ (1980年より3年間, ガラス室横に5株出現し多数の果実をつけていたがその後消滅), ブラック・ベリー (1978年より, 西の裏門附近で多数繁殖), ジンジャー (西の裏門近くの雑木林下に繁殖, 年々生育範囲が拡大しつつある), オーニソガラム・コリムボスム (1980年より1号館の南と北側2個所で繁殖, 時折人により取り去られる個体もあるようだが, いくらか範囲を広めている), シラー・ノンスクリプタ (1972年より10年間, 4号館北のハチク林沿いの草むらで10株程毎年開花していたが, 整地され消滅), オニカモジ (1982年職員宿舎のブロック塀沿いに数株), ウマノチャヒキ (1982年放牧場横で数株), モエジマシダ (1976年より5年間, ガラス室附近に自生)。

これらの他に, 高知県内として比較的稀産なヤマザトタンポポ, アカミタンポポ, アメリカネナシカズラ, ユウゲショウ, イタチハギ, ホソバヤハズエンドウ, オオカラスノエンドウ, シロバナマンテマ, マンテマ, ノハラツメクサ, ノジシャ, マオ, ショウブ, ムラサキハンゲ, ハルガヤ, ネズミホソムギ, タチスズメノヒエ, コバンソウ, カミガモシダ, なども特筆すべきものであろう。

高知大学農学部構内野生植物目録

Angiospermae 被子植物亜門

Dicotyledoneae 双子葉植物綱

Compositae キク科

- Achillea millefolium* Linn. セイヨウノコギリソウ 栽培植物の逸出したものが昭和55年まで10年間程開花個体が見られたが, その後整地により消失。
- Ambrosia artemisiaefolia* Linn. var. *elatior* (L.) Desc. ブタクサ 車庫の洗車場の水が流れ溜る道路横で昭和56年に2個体出現したが, 開花直前に除草のため消失。
- Artemisia japonica* Thunb. オトコヨモギ 車庫横の洗車場近くの草地に自生。
- Artemisia montana* Pampan. オオヨモギ (エゾヨモギ, ヤマヨモギ) 昭和57年ハチク林中で4個体出現。
- Artemisia princeps* Pampan. ヨモギ (カズザキヨモギ) 各所に多数分布する。
- Aster ageratoides* Turcz. var. *semiamplexicaulis* (Makino) Ohwi イナカギク (ヤマシロギク) 雑木林附近で見られる。
- Aster hispidus* Less. アレノノギク (ヤマジノノギク)
- Aster subulatus* Michx. ホウキギク 農場内の道路端に自生。
- Bidens biternata* (Lour.) Merr. et Sherff センダングサ 各所に広く分布し, 個体数も多い。昭和40年代にはアメリカセンダングサが多数見られたが50年代になり, センダングサが急増した。
- Bidens frondosa* Linn. アメリカセンダングサ (セイタカタウコギ) 以前は各所で多数見られたが, 近年減少した。
- Bidens pilosa* Linn. コセンダングサ 農場北側の草地でよく見られる。
- Bidens pilosa* L. var. *minor* (Blume) Sherff シロノセンダングサ (シロバナセンダングサ) 雑木林周辺で見られるが少ない。
- Centipeda minima* (Linn.) A. Braun et Aschers. トキンソウ 畑地などに多い
- Chrysanthemum coronarium* L. var. *spatiosum* Bailey シュンギク (キクナ) 栽培植物の逸出

による。年により見られるが、1～2年で消滅していく。

Chrysanthemum indicum Linn. シマカンギク (ハマカンギク, アブラギク) 網室周辺部に2個体自生する。栽培植物の逸出。

Chrysanthemum japonense (Mak.) Nakai ノジギク 2個所で見られるが個体数はそれ程多くない。

Chrysanthemum leucanthemum Linn. フランスギク 栽培植物の逸出か?

Chrysanthemum shiwogiku Kitam. シオギク 旧1号館北の車廻し横の石垣で見られたが、校舎の改築により消失。

Cirsium japonicum D.C. ノアザミ 西門附近他2個所に自生するが少ない。

Cirsium nipponicum (Maxim.) Makino var. *shikokianum* (Kitam.) Kitam. シコクアザミ 職員宿舎横で見られるが少ない。

Coreopsis lanceolata Linn. オオキンケイギク 栽培植物が逸出したもので年により個体数の変動が著しい。

Coreopsis tinctoria Nutt. ハルシャギク (ジャノメギク) 栽培植物の逸出による。年によって個体数が増減する。通常2年程で消失するが、農場北の草地のものは10年間程出現した。

Cosmos bipinnatus Cav. コスモス 栽培植物の逸出。年により生育場所が移動する。職員宿舎近くの道路端では毎年開花個体が見られる。

Cosmos sulphureus Cav. キバナコスモス 栽培植物の逸出したもの。昭和57年頃にはかなりの個体数となったが、昭和60年頃より見られなくなった。

Crassocephalum crepidioides (Benth.) S. Moore ベニバナポロギク 各所に多数分布する。

Eclipta prostrata Linn. タカサブロウ 畑地などに多い。

Erechitites hieracifolia (L.) Raf. ダンドポロギク 昭和58年頃より出現。それ程多くない。

Erigeron acris Linn. var. *linearifolius* (Koidz) Kitam. ホソバムカシヨモギ

Erigeron annuus (L.) Pers. ヒメジョオン 全域に広く分布する。

Erigeron bonariensis Linn. アレチノギク 各所で見られるが個体数はそれ程多くない。

Erigeron canadensis Linn. ヒメムカシヨモギ 各所で見られる。

Erigeron philadelphicus Linn. ハルジョオン 全域に分布する。

Erigeron strigosus Muhl. ヤナギバヒメジョオン 雑木林横の道路沿いの草地で見られる。

Erigeron sumatrensis Retz. オオアレチノギク 各所で見られる。

Eupatorium fortunei Turcz. フジバカマ 網室横の道路端で毎年開花している。

Farfugium japonicum (L.) Kitam. ツワブキ 雑木林の横などに見られるが、それ程多くない。

Gnaphalium affine D. Don ハハコグサ (オギョウ, ホウコグサ) 各所で見かけられるが個体数は多くない。

Gnaphalium japonicum Thunb. チチコグサ 昭和55年頃より1号館周辺の芝地で大群落を形成。それ以前は殆んど見られなかったものである。

Gnaphalium purpureum Linn. チチコグサモドキ 昭和50年頃までは個体数が非常に多かったが、昭和57年頃より激減した。

Gymnaster savatieri (Makino) Kitam. ミヤマヨメナ (ミヤコワスレ, シュンギク) 昭和55年頃より見られるようになったが、栽培植物の逸出かはっきりしない。

Helianthus tuberosus Linn. キクイモ 旧農学科棟横で自生していたが、校舎の改築により

消失。

Hemistepta lyrata Bunge キツネアザミ 各所に分布する。

Hypochoeris radicata Linn. ブタナ 洗車場横の芝布の中に昭和55年2株開花。2年後に消滅。

Ixeris dentata (Thunb.) Nakai ニガナ 昭和57年頃より3号館前の芝布内に多数自生する
以外は見られない。

Ixeris dentata var. *amplifolia* Kitam. オオニガナ (ハナニガナ, オオバナニガナ)

Ixeris dentata var. *amplifolia* forma *leucantha* Hara シロバナハナニガナ

Ixeris dentata var. *stolonifera* (Kitam.) Nemoto ハイニガナ

Ixeris japonica (Burm.) Nakai オオジシバリ (ツルニガナ) 校内各所に多数群落を作っ
ている。

Ixeris polycephala Cass. ノニガナ 昭和56年頃より, あちこちで見られるようになった。

Ixeris stolonifera A. Gray ジシバリ (イワニガナ, ハイジシバリ) 昭和57年より出現。図
書館裏の整地の際, 赤土の客土と共に入って来たものと思われる。

Kalimeris incisa (Fisch.) D.C. オオユウガギク (チョウセンヨメナ) 雑木林周辺で見ら
れる。

Kalimeris yomena Kitam. ヨメナ 各所で見られる。特に西門附近に多い。

Lactuca indica Linn. var. *laciniata* (O. Kuntze) Hara アキノノゲシ 各所に多い。

Lactuca indica Linn. var. *laciniata* (O. Kuntze) Hara forma *indivisa* (Makino) Hara ホソ
バアキノノゲシ 各所で見られるが個体数は少ない。

Lapsana humilis (Thunb.) Makino ヤブタバコ 雑木林周辺他, 所々で見られる。

Petasites japonicus (Sieb. et Zucc.) Maxim. フキ 雑木林周辺に多い。

Picris hieracioides L. var. *glabrescens* (Regel) Ohwi コウゾリナ 昭和57年日章会館南の草
地で2個体出現。整地の際赤土に種子が混入してきたものと考えられる。

Rudbeckia serotina Nutt. キヌガサギク (グロリオサ・デージー) 栽培種の逸出。昭和46
年頃より網室附近に見られたが, 10年程して大型雑草に被われ, 見受けられなくなった。

Senecio vulgaris Linn. ノボロギク 昭和57年4号館西の芝地に2個体出現。3年後には消
失。

Solidago altissima Linn. セイタカアワダチソウ (セイタカアキノキリンソウ) 昭和42年
頃より見られるようになった。現在は西から北にかけての草地に多い。

Sonchus asper (L.) Hill. オニノゲシ 昭和55年頃より出現。最初は車庫前の道路沿いに見
られたが, 現在では拡範囲に自生。

Sonchus oleraceus Linn. ノゲシ (ハルノノゲシ) 全域いたる所に自生。

Tagetes patula Linn. フレンチ・マリゴールド (マンジュギク) 栽培植物の逸出。職員宿
舎近くの草地で出現しては2, 3年して消失していく。

Taraxacum albidum Dahlst. シロバナタンポポ 古くより全域に広く分布。

Taraxacum albidum Dahlst. forma *sulfureum* (H. Koidz.) Kitam. キバナシロタンポポ 昭和
45年頃までは黄花種のタンポポは一種も見られなかった。当初は厚生会館西の電話ボッ
クス附近に3個体出現。現在は数個所でよく開花個体が見られるようになった。昭和56
年頃出現。

Taraxacum Arakii Kitam. ヤマザトタンポポ 昭和55年頃より1号館北の林学科の出入口附
近に出現。

Taraxacum ceratolepis Kitam. ケンサキタンポポ 昭和57年車庫横の洗車場附近に2株出現。

- Taraxacum japonicum* Koidz. カンサイタンポポ 昭和46年頃より車庫の南の道路沿いの草むらで見かけられたのが、黄花のタンポポの初めての個体である。現在ではかなり拡範囲で見受けられるが、個体数はそれ程多くない。
- Taraxacum laevigatum* D.C. アカミタンポポ (キレハアカミタンポポ) 昭和56年網室附近に出現。現在では校内の黄花種の中で最も個体数の多いものとなっている。
- Taraxacum officinale* Weber セイヨウタンポポ 昭和55年2株確認。現在でも個体数はそれ程多くない。
- Xanthium canadense* Mill. オオオナモミ 各所に自生。
- Xanthium strumarium* Linn. オナモミ 職員宿舎近くの草地に昭和57年より出現。現在も殆んど増殖していない。
- Youngia denticulata* (Houtt.) Kitam. ヤクシソウ 各所に見られるが、個体数は多くない。
- Youngia japonica* (Linn.) A. D.C. オニタビラコ 全域に広く自生。
- Campanulaceae** キキョウ科
- Lobelia chinensis* Lour. ミゾカクシ (アゼムシロ) 農場の水田内の道路端に自生。
- Platycodon grandiflorum* (Jacq.) A. D.C. キキョウ おそらく栽培種の逸出か、個体数は増減することなく道路横の草むらで毎年開花している。
- Wahlenbergia marginata* (Thunb.) A. D.C. ヒナギキョウ 3号館南の芝地とグラウンドの方で多く見られる。
- Cucurbitaceae** ウリ科
- Benincasa hispida* Cagn. トウガン (トウガ, カモウリ) 栽培種の逸出。
- Citullus vulgaris* Schrad. スイカ 栽培種の逸出。
- Cucumis melo* Linn. マスクメロン (メロン) 栽培種の逸出。
- Cucumis melo* Linn. var. *makuwa* Makino マクワウリ 栽培種の逸出。前3種と同様ビニールハウス周辺、或は農場周辺に年により出現し、1年で消失していく。
- Gynostemma pentaphyllum* (Thunb.) Makino アマチャヅル 職員宿舎南の雑木林中に少数自生。
- Lagenaria siceraria* Stand. var. *Gourda* Hara ヒョウタン 栽培種の逸出。
- Luffa cylindrica* Roem. ヘチマ 栽培種の逸出。
- Melothria japonica* (Thunb.) Maxim. スズメウリ 4号館北の道路沿いに多い。
- Momordica charantia* Linn. ツルレイシ (ニガウリ) 栽培種の逸出。
- Trichosanthes cucumeroides* (Ser.) Maxim. カラスウリ 雑木林及び、農場周辺に自生。
- Trichosanthes kirilowii* Maxim. var. *japonica* (Mig.) Kitam. キカラスウリ 農場の果樹園の防風垣に多い。
- Valerianaceae** オミナエシ科
- Valerianella olitoria* (L.) Poll. ノジシャ 農場牧草地で見られる。
- Caprifoliaceae** スイカズラ科
- Lonicera japonica* Thunb. スイカズラ (ニンドウ) 数個所で年々見られる。
- Viburnum awabuki* K. Koch サンゴジュ 図書館南の林下に少数個体自生。
- Rubiaceae** アカネ科
- Galium gracilens* (A. Gray) Makino ヒメヨツバムグラ 昭和55年頃より見られるようになった。
- Galium spurium* L. var. *echinospermon* (Wallr.) Hayek ヤエムグラ 全域に広く分布。

Galium trifidum L. var. *brevipedunculatum* Regel ホソバナヨツバムグラ それ程多くない。
Houstonia caerulea Linn. ヒナソウ (トキワナスガ) 昭和55年まで網室内のジャリの中に
 数株自生し、毎年可愛いらしい花を咲かせていたがその後消失。

Paederia scandens (Lour.) Merrill var. *maireri* (Lev.) Hara ヘクソカズラ (ヤイトバナ、
 サオトメカズラ) 各所に分布する。

Rubia akane Nakai アカネ 南西の林学科の圃場で昭和53年頃より見られたが、現在は雑木
 林周辺など数個所に自生し、個体数も多くなった。

Plantaginaceae オオバコ科

Plantago asiatica Linn. オオバコ 全域に広く分布。

Plantago lanceolata Linn. ヘラオオバコ 昭和56年幼個体を2株確認し、その翌年、十数個
 体の開花株を見たが、昭和60年より全て消滅。侵入源は日章会館南の整地の際の客土と
 しての赤土と思われる。

Plantago virginica Linn. ツボミオオバコ (タチオオバコ) 昭和57年洗車場附近に4株出現。
 翌年より洗車場北の防火用水池附近及び食堂北の道路端に少数出現。しかしいずれも2
 ~3年で周囲の草に被われ消滅。

Acanthaceae キツネノマゴ科

Justicia proumbens Linn. キツネノマゴ 各所に多い。

Orobanchaceae ハマウツボ科

Aeginetia indica Linn. ナンバンギセル ガラス室群西のススキの株元で見られたが、整地
 され消滅。

Scrophulariaceae ゴマノハグサ科

Dopatrium junceum (Roxb.) Hamilt. アブノメ (バチバチグサ) 農場の水田中に広く分布。

Linaria bipartita Willd. ヒメキンギョソウ (ムラサキウンラン) 栽培種の逸出による。昭
 和38年より昭和45年にかけて職員宿舎近くの道路端で年々場所を変えて開花していた
 が、その後消失。

Linaria canadensis (L.) Dum. マツバウンラン 昭和57年より4号館北西の芝地に3個体
 出現。翌年6個体、2年目に1個体となり3年目には消滅。

Lindernia procumbens (Krock.) Philcox アゼナ 農場の水田周辺で見られる。

Mazus japonicus (Thunb.) O. Kuntze トキワハゼ 全域に広く分布。

Mazus miquelii Makino ムラサキサギゴケ 各所に群生する。

Vandellia angustifolia Benth. アゼトウガラシ 芝地や畑地で見られる。

Vandellia crustacea (L.) Benth. ウリクサ 農場の水田中に広く分布。

Vandellia anagallis (Burm.) Yamazaki var. *verbenaefolia* (Colsm.) Yamazaki スズメノト
 ウガラシ 水田の周辺で見られる。

Veronica arvensis Linn. タチイヌノフグリ 全域に広く分布する。

Veronica didyma Tenore var. *lilacina* (Hara) Yamazaki イヌノフグリ (ハタケクワガタ)
 校内全域に広く分布するが、オオイヌノフグリやタチイヌノフグリに比較すると、本種
 はかなり少ない。近年特に減少した。

Veronica persica Poir. オオイヌノフグリ 全域に広く分布する。

Veronica undulata Wallich カワヂシャ 農場の牧草地で見られる。

Solanaceae ナス科

Lycium chinense Mill. クコ 職員宿舎の裏門の門柱わきに生育。よく門柱の上に来る小鳥

により種子が運ばれてきたものであろう。

Petunia hybrida Vilm. ツクバネアサガオ 栽培植物が逸出したもの、年により場所を変えて時々見られる。

Physalis alkekengi L. var. *franchetii* (Mast.) Hort. ホオズキ 職員宿舎近くの道路端で見られたが翌年には消滅。

Solanum aculeatissimum Jacq. キンギンナスビ 旧農学科棟北の草地に自生していたが改築後消滅。

Solanum carolinense Linn. ワルナスビ 旧農学科ガラス室周辺で見られたが改築の際消滅。

Labiatae シソ科

Ajuga decumbens Thunb. キランソウ (ジゴクノカマノフタ) 各所に分布する。

Clinopodium chinense (Beuth) O. Kuntze subsp. *grandiflorum* (Maxim.) Hara var. *parviflorum* (Kudo) Hara クルマバナ 雑木林横の道路沿いで見られる。

Clinopodium gracile (Benth.) O. Kuntze トウバナ 畑地や芝地に自生する。

Clinopodium micranthum (Regel) Hara イヌトウバナ 各所で見られる。

Glechoma hederacea L. var. *grandis* (A. Gray) Kudo カキドオシ 食堂北の草地及び農場内の道路端に自生。

Lamium aldim L. var. *barbatum* (Sieb. et Zucc.) Fr. et Sav. オドリコソウ 西門近くの雑木林内に自生していたが、昭和59年整地により消滅。

Lamium amplexicaule Linn. ホトケノザ 各所に分布する。

Leonurus sibiricus Linn. メハジキ 農場周辺で見られる。

Mentha cardiaca Baker アメリカハッカ 栽培植物の逸出。昭和45年頃よりガラス室周辺に野生化。年により個体数が増減する。

Mentha piperita Linn. コショウハッカ 栽培植物の逸出。昭和45年頃よりガラス室周辺に野生化。最近見られなくなった。

Mentha rotundifolia (L.) Huds. マルバハッカ 栽培植物の逸出。昭和45年頃よりガラス室周辺で見られるようになったが、昭和61年消滅。

Mentha spicata var. *crispa* Benth. オランダハッカ (チリメンハッカ) 栽培植物の逸出。年々広がりがつつある。

Mosla punctulata (J. F. Gmel.) Nakai イヌコウジュ 芝地や草地の各所で見られる。

Perilla frutescens Britt. var. *acuta* Kudo アカジソ 栽培植物の逸出。年により所を変えて出現する。

Perilla frutescens Britt. var. *acuta* Kudo forma *discolor* Makino カタメジソ 栽培植物の逸出。昭和55年よりガラス室周辺に野生化。現在かなり拡範囲に分布。

Perilla frutescens Britt. var. *acuta* Kudo forma *viridis* Makino アオジソ 栽培植物の逸出。

Perilla frutescens (L.) Britt. var. *japonica* (Hassk.) Hara エゴマ 各所で見られる。

Physostegia virginiana Benth. カクトラノオ (ハナトラノオ) 栽培植物の逸出。年により出現するが、1~2年で消滅。

Salvia japonica Thunb. アキノタムラソウ 雑木林周辺部で見られるが、個体数は少ない。

Salvia plebeia R. Br. ミゾコウジュ (ユキミソウ) 各所に分布。

Scutellaria indica Linn. タツナミソウ 雑木林横の道路端で毎年開花していたが昭和59年整地の際消失。

Stachys japonica Mig. var. *intermedia* (Kudo) Ohwi イヌゴマ 芝地、草地に点在する。昭

和56年頃より多くなった。

Verbenaceae クマツヅラ科

Clerodendron trichotomum Thunb. クサギ 数個所に点在する。

Verbena phlogiflora Cham. ビジョザクラ 栽培植物の逸出。年により場所を変えて出現するが、3～4年で消滅する。

Vitex rotundifolia Linn. f. ハマゴウ 県道13号線道路沿いで見られる。

Boraginaceae ムラサキ科

Bothriospermum tenellum (Hornem.) Fish. et Mey. ハナイバナ 芝地で見られるが少ない。

Trigonotis peduncularis (Trevir.) Benth. キウリグサ (タビラコ) 芝地、畑地の各所に多い。

Convolvulaceae ヒルガオ科

Calystegia hederacea Wall. コヒルガオ 各所に自生。

Calystegia japonica Choisy ヒルガオ

Calystegia soldanella (L.) Roem. et Schult. ハマヒルガオ 県道13号線道路沿いで見られる。

Cuscuta australis R. Br. マメダオシ 雑木林周辺で見られる。

Cuscuta pentagona Engelm. アメリカネナシカズラ 農場内の道路沿いに多い。

Ipomea coccinea Linn. マルバルコウ 栽培植物の逸出。毎年見られる。

Ipomea quamoclit Linn. ルコウソウ 栽培植物の逸出。2～3年で消滅する。

Oleaceae モクセイ科

Ligustrum japonicum Thunb. ネズミモチ (タマツバキ) 雑木林内で見られる。

Ligustrum obtusifolium Sieb. et Zucc. イボタノキ 雑木林内に自生。

Primulaceae サクラソウ科

Lysimachia clethroides Duby オカトラノオ 道路沿いの草地に点在する。

Lysimachia japonica Thunb. コナスビ 各所で見られる。

Myrsinaceae ヤブコウジ科

Ardisia crenata Sims マンリョウ 雑木林内で見られる。

Umbelliferae セリ科

Anthriscus sylvestris (L.) Hoffm. シャク 雑木林周辺部に自生。

Apium leptohyllum (Pers.) F. Muell. マツバゼリ 各所に多い。

Centella asiatica (L.) Urban ツボクサ 日章会館南の草地などで見られるが少ない。

Chamaele decumbens (Thunb.) Makino. セントウソウ 網室横、雑木林中などで見られる。

Coriandrum sativum Linn. コエンドロ 昭和57年より3号館の西出口の北の通路に出現。3年間見られたが、その後消失。

Cryptotaenia japonica Hassk. ミツバ 栽培植物の逸出か。職員宿舎周辺の草地で見られる。

Hydrocotyle maritima Honda ノチドメ 各所で見られる。

Hydrocotyle sibthorpioides Lam. チドメグサ 各所に分布。

Oenanthe javanica (Blume) D.C. セリ 4号館西側及び北側の水路で見られる。

Torilis japonica (Houtt.) D.C. ヤブジラミ 各所に多い。

Torilis scabra (Thunb.) D.C. オヤブジラミ 雑木林周辺部で見られる。

Araliaceae ウコギ科

Aralia elata (Mig.) Seemann タラノキ 雑木林内で見られる。

Dendropanax trifidus (Thunb.) Makino カクレミノ 雑木林内に自生。

Fatsia japonica (Thunb.) Decne et Planch ヤツデ 雑木林内に自生。

Hedera rhombea (Mig.) Bean キヅタ (フユヅタ) 厚生会館北の林中で見られる。

Tetrapanax papyriferum K. Koch ツウダツボク (カミヤツデ) 西門附近に分布。個体数多い。

Onagraceae アカバナ科

Ludwigia decurrens Walt. アメリカミズキンバイ 農場の水田水路に見られる。

Ludwigia greatrexii Hara ウスゲチヨウジタデ 4号館西の水路中に自生。

Ludwigia stipulacea (Ohwi) Ohwi ミズキンバイ 農場の水田中に自生。

Oenothera biennis L. アレチマツヨイグサ 昭和57年より出現し、現在では裸地でよく見かけられるようになった。

Oenothera erythrosepala Borbas オオマツヨイグサ 昭和50年頃より見られるようになったが、それ程多くない。

Oenothera laciniata Hill コマツヨイグサ 昭和57年農場横の工事で残された砂に出現したが、現在ではかなり分布圏が拡大され、芝地でよく見かけられる。

Oenothera rosea Ait. ユウゲシヨウ (アカバナユウゲシヨウ) 職員宿舎近くの道路端で毎年出現する。最近1号館南側芝地でも見られるようになった。栽培植物の逸出。

Oenothera speciosa Nutt. ヒルザキツキミソウ 栽培植物の逸出。

Oenothera stricta Ledeb. ex Link マツヨイグサ 各所に広く分布。裸地に多い。

Oenothera tetraptera Cav. ツキミソウ 昭和45年頃より職舎近くの道路端に出現。栽培植物の逸出。毎年1~2本見られるにすぎない。

Trapa incisa Sieb. et Zucc. ヒメビシ 農場の堀に見られる。

Lythraceae ミソハギ科

Ammannia coccinea Rottb. ホソバヒメミソハギ 農場の水田端で見られる。

Ammannia multiflora Roxb. ヒメミソハギ 農場の水田沿いに多い。

Lythrum anceps (Koehne) Makino ミソハギ 職員宿舎附近に自生。

Rotala indica Koehne var. *uliginosa* Koehne キカシグサ 畑地で見られる。

Elaeagnaceae グミ科

Elaeagnus pungens Thunb. ナワシログミ 雑木林周辺部に自生。

Violaceae スミレ科

Viola eizanensis (Makino) Makino エイザンスミレ (エゾスミレ) 栽培植物の逸出。網室附近に昭和46年頃より3度出現、2年程でその都度消滅。

Viola grypoceras A. Gray タチツボスミレ 年により個体数が増減する。網室周辺で見られる。

Viola keiskei Mig. マルバスミレ 昭和49年より網室東側に出現5年程で消滅。

Viola mandshurica W. Becker スミレ 昭和50年より網室北の砂地の草地で多数繁殖していたが、昭和63年、整地により消滅。

Viola patrini D. C. シロバナスミレ 農場の南端の道路端で見られたが、昭和59年頃より見られなくなった。

Viola pumilio W. Becker フモトスミレ 昭和50年頃より3年程網室の東側で見られた。

Viola tricolor Linn. ビオラ・トリコロール ガラス室周辺で年により出現。4~5年は自生。

Viola verecunda A. Gray ニョイスミレ (ツボスミレ, コマノツメ) 昭和55年4号館北の芝地に出現。現在では拡範囲に群生する。

Viola violacea Makino シハイスミレ 昭和49年頃より網室周辺に出現。昭和60年より消滅。

Guttiferae オトギリソウ科

Hypericum chinense Linn. ビョウヤナギ (ビョウオトギリ) 昭和38年より雑木林の南端に1個体あり。昭和58年掘り取られ消滅。

Hypericum oliganthum Franch. et Savat. アゼオトギリ 農場の水田沿いに見られる。

Hypericum patulum Thunb. キンシバイ センダン並木北の水路端に見られたが、昭和50年頃人の手により持ち去られた。

Theaceae ツバキ科

Thea sinensis Linn. チャノキ (チャ) 農場管理棟北側で見られる。栽培植物の逸出による。

Malvaceae アオイ科

Hibiscus esculentus Linn. オクラ 年により出現。1年ごとで消滅する。栽培植物の逸出。

Hibiscus mutabilis Linn. フヨウ 雑木林沿いに2株自生。

Vitaceae ブドウ科

Ampelopsis brevipedunculata (Maxim.) Trautv. ノブドウ 農場周辺及び雑木林周辺など、めずらしくない。

Cayratia japonica (Thunb.) Gagn. ヤブガラシ 各所の草地に自生。

Parthenocissus tricuspidata (Sieb. et Zucc.) Planch. ツタ (ナツツタ) 図書館南の林中及び雑木林中に自生。

Vitis coignetiae Pulliat ヤマブドウ 雑木林周辺部に見られる。

Celastraceae ニシキギ科

Celastrus orbiculatus Thunb. ツルウメモドキ 雑木林中で見られる。

Euonymus japonicus Thunb. マサキ 雑木林中に自生。

Euonymus sieboldianus Blume マユミ 雑木林中に自生。

Anacardiaceae ウルシ科

Rhus javanica Linn. ヌルデ (フシノキ) 放牧場東側の草地に自生。

Rhus succedanea Linn. ハゼ (ハゼノキ, リュウキュウハゼ) 雑木林中で見られる。

Euphorbiaceae トウダイグサ科

Acalypha austrelis Linn. エノキグサ 各所に自生。

Alchornea teuioides (Benth.) Mueller-Arg. オオバベニガシワ (オオバアカメガシワ) 西門附近で多数見られる。

Euphorbia maculata Linn. オオニシキソウ 芝地の所々で見かけられる。

Euphorbia pseudochamaesyce Fisch. Mey. et Lallemand. ニシキソウ 各所に普通に見られる。

Euphorbia supina Rafin. コニシキソウ 各所に多い。

Mercurialis leiocarpa Sieb. et Zucc. ヤマアイ 4号館北側の水路沿いに自生していたが、水路の改修工事により消滅。

Phyllanthus urinaria Linn. コミカンソウ 各所の芝地, 草地に分布。

Phyllanthus ussuriensis Rupr. et Maxim. ヒメミカンソウ

Sapium sebiferum (L.) Roxb. ナンキンハゼ 栽培植物の逸出。所々で見かけられる。

Polygalaceae ヒメハギ科

Polygala japonica Houtt. ヒメハギ 各所に多い。

Meliaceae センダン科

Melia azedarach Linn. センダン (オウチ) 栽植本数の多い割には、それ程見かけられない。

Simaroubaceae ニガキ科

Ailanthus altissima Swingle ニワウルシ (シンジュ) 各所で見られる。栽培植物の逸出。

Rutaceae ミカン科

Boenninghausenia japonica Nakai マツカゼソウ 西方の草地で見られる。

Citrus natsudaidai Hayata ナツミカン 栽培植物の逸出。職員宿舎北側。

Zanthoxylum ailanthoides Sieb. et Zucc. カラスザンショウ 雑木林中に自生する。

Oxalidaceae カタバミ科

Oxalis corniculata Linn. カタバミ 各所に多い。

Oxalis corniculata Linn. forma *rubifolia* (Makino) Hara アカカタバミ

Oxalis corymbosa D.C. ムラサキカタバミ 各所で見られる。

Geraniaceae フウロソウ科

Geranium carolinianum Linn. アメリカフウロ 各所に多い。

Geranium thunbergii Sieb. et Zucc. ゲンノショウコ (フウロソウ) 雑木林周辺部で見られる。

Leguminosae マメ科

Aeschynomene indica Linn. クサネム 農場の道路沿いに自生。

Aeschynomene virginica (L.) BSP. アメリカクサネム 昭和58年より農場の水田沿いに出現。

Albizia julibrissin Durazz. ネムノキ 雑木林周辺部。

Amorpha fruticosa Linn. イタチハギ (クロバナエンジュ, ロシヤハギ) 旧林学科の車庫附近に自生。

Amphicarpaea edgeworthii Benth. var. *japonica* Oliver ヤブマメ 野地に多い。

Astragalus sinicus Linn. ゲンゲ (レンゲソウ) 最近あまり見かけられなくなった。

Cassia occidentalis Linn. ハブソウ 栽培植物の逸出。年により見かけられるが、1年で消滅。

Cassia tora Linn. エビスグサ 栽培植物の逸出。網室附近で毎年かなりの個体数が出現する。

Clitoria ternatea Linn. チョウマメ 昭和53年ガラス室周辺で見られたが2年後に消滅。栽培植物の逸出。

Crotalaria sessiliflora Linn. オオゴンタヌキマメ 昭和53年頃より出現。年々場所を変えて増減する。栽培植物の逸出。

Desmodium oxiphyllum D.C. ヌスビトハギ 雑木林周辺で見られたが、最近見かけられなくなった。

Dunbaria villosa (Thunb.) Makino ノアズキ (ヒメクズ) ガラス室群周辺部に昭和56年頃より出現。農場の南側の道路端にも自生。

Glycine soja Sieb. et Zucc. ツルマメ 各所の草地で見られる。

Indigofera pseudo-tinctoria Matsum. コマツナギ 県道13号線沿いの草地他、周辺部の草地で見られる。

Kunmerovia striata (Thunb.) Schindler ヤハズエンドウ 牧草地などで見られる。

Lathyrus japonicus Willd. ハマエンドウ 県道13号線沿いの道路端で見かけられる。昭和45年頃には1号館南の築山に数年間出現した。

Lespedeza cuneata (Du Mont. d. Cours.) G. Don メドハギ 各所に分布。特に運動場や農場道路端に多い。

Lespedeza cuneata (Du Mont. d. Cours.) G. Don var. *serpens* (Nakai) Ohwi ハイメドハギ 各所に分布

- Medicago polymorpha* Linn. ウマゴヤシ 農場周辺部で見られる。特に農場管理棟北側の草地に多い。
- Pueraria lobata* (Willd.) Ohwi クズ 雑木林周辺の他各所で見られる。
- Robinia pseudo-acacia* Linn. ハリエンジュ (ニセアカシア) 雑木林及び農場管理棟北側で見られる。
- Trifolium dubium* Sibth コメツブツメクサ 芝地及び牧草地に拡範囲に分布し各所で大群落を形成している。
- Trifolium pratense* Linn. ムラサキツメクサ (アカツメクサ) 昭和40年頃までは所々で見かけられたが、昭和50年頃より見られなくなっていた。しかし、昭和57年より食堂北の道路端に出現。
- Trifolium repens* Linn. シロツメクサ (クローバー, オランダゲンゲ) 各所に分布。
- Vicia angustifolia* Linn. var. *minor* (Bertol.) Ohwi オソバヤハズエンドウ 牧草地の他はそれ程多くない。
- Vicia angustifolia* Linn. var. *segetalis* (Thuill.) Koch カラスノエンドウ (ヤハズエンドウ) 各所の草地, 芝地に多い。
- Vicia dasycarpa* Tenore ナヨクサフジ
- Vicia hirsuta* (L.) S. F. Gray スズメノエンドウ 芝地の各所に多い。
- Vicia sativa* Linn. オオカラスノエンドウ 農場牧草地で見られる。
- Vicia tetrasperma* (L.) Schreb. カスマグサ 芝地に多い。
- Vigna angularis* (Willd.) Ohwi et Ohashi var. *nipponensis* (Ohwi) Ohwi et Ohashi ヤブツルアズキ ガラス室周辺及び西端の草地で見られる。
- Wisteria floribunda* (Willd.) フジ 雑木林の他, ガラス室周辺部などに多い。

Rosaceae バラ科

- Agrimonia pilosa* Ladeb. キンミズヒキ 雑木林周辺の草地などで見られる。
- Duchesnea chrysantha* (Zoll. et Mor.) Mig. ヘビイチゴ 各所に分布。
- Eriobotrya japonica* (Thunb.) Lindl. ビワ 雑木林内など数個所に自生。
- Fragaria vesca* Linn. エゾヘビイチゴ 昭和56年頃ガラス室横に出現。4年間程毎年赤い実を付けていたがその後消失。
- Potentilla kleiniana* Wight et Arnott オヘビイチゴ 野地に多い。
- Rosa luciae* Franch. et Rochebr. var. *fujisanensis* Makino フジイバラ 放牧場の県道13号線沿いの草地。
- Rosa multiflora* Thunb. ノイバラ 雑木林周辺などに多い。
- Rosa wichuraiana* Crépin テリハノイバラ (ハイイバラ) 県道13号線沿いの草地の他は少ない。
- Rubus buergeri* Mig. フユイチゴ 雑木林内に少数自生。
- Rubus frondosus* Bigel. ブラック・ベリー 西門附近に多数自生。
- Rubus hirsutus* Thunb. クサイイチゴ (ヤブイチゴ) 農場周辺部で見られた。
- Rubus illecebrosus* Focke バライイチゴ 雑木林に自生。
- Rubus microphyllus* Linn. fil. ニガイイチゴ 雑木林周辺部で見られたが、最近見られなくなった。
- Rubus parvifolius* Linn. ナワシロイチゴ 農場周辺部に自生。
- Rubus trifidus* Thunb. カジイチゴ 敷地北西周辺部に多数繁殖。

Sanguisorba officinalis Linn. ワレモコウ 運動場周辺に小数自生。

Saxifragaceae ユキノシタ科

Saxifraga stolonifera Meerb. ユキノシタ 職員宿舎周辺など点在する。

Deutzia crenata Sieb. et Zucc. ウツギ(ウノハナ) 車庫西の道路沿いなど3個所で見られる。

Crassulaceae ベンケイソウ科

Sedum bulbiferum Makino コモチマンネングサ 点在し、群生する。

Sedum mexicanum Britt. メキシコマンネングサ 雑木林周辺で見られたが最近見られなくなった。

Cruciferae アブラナ科

Arabidopsis thaliana (L.) Heynh. シロイヌナズナ 芝地や畑地で見られる。

Brassica campestris Linn. subsp. *napus* Hook. f. et Anderss. var. *nippo-oleifera* Makino アブラナ 道路沿いの草地で年により出現する。

Capsella bursa-pastoris (L.) Medik. ナズナ 各所に多い。

Cardamine flexuosa With. タネツケバナ 各所に多い。

Cardamine impatiens Linn. ジャニンジン 職員宿舎道路端に昭和56年1個体出現。

Cardamine lyrata Bunge ミズタガラシ 農場の水田に多い。

Lepidium virginicum Linn. マメグンバイナズナ(セイヨウグンバイナズナ) 各所に広く繁殖。

Orychophragmus violaceus O. E. Schulz. ハナダイコン(オオアラセイトウ, ショカツサイ) 西門への道路端に昭和54年1個体出現。翌年数個体となり2年後には多数個体となったが3年後では数本、4年後には2本となり5年後には見られなくなった。

Raphanus sativus Linn. var. *acanthiiformis* Mak. f. *raphanistroides* Mak. ハマダイコン 県道13号線の道路沿いに草地で見られる。

Raphanus sativus L. var. *hortensis* Backer f. *miyashige* Makino ミヤシゲダイコン 農場横の道路沿いなどで年により出現。

Rorippa iudica (L.) Hieron. イヌガラシ 芝地, 道路端など各所に散生する。

Papaveraceae ケシ科

Chelidonium majus Linn. var. *asiaticum* (Hara) Ohwi クサノオウ 北西の見本林予定地の草地に昭和57年10個体程あったが翌年には消滅。昭和61年その南方向に位置するガラス室の北側で多数個体繁殖。

Corydalis incisa (Thunb.) Pers. ムラサキケマン(ヤブケマン) 西門附近で昭和50年頃より出現。

Eschscholtzia californica Cham. ハナビシソウ 栽培植物が逸出。3年目に消滅。

Papaver rhoeas Linn. ヒナゲシ(グビジンソウ) 職員宿舎附近で年により出現。

Lauraceae クスノキ科

Cinnamomum Camphora (Linn.) Sieb. クスノキ 雑木林で見られる。

Cinnamomum japonicum Sieb. ヤブニッケイ 雑木林内に自生。

Lardizabalaceae アケビ科

Akebia quinata (Houtt.) Decne. アケビ 車庫西のアキニレの幼木林に多数自生。

Ranunculaceae キンポウゲ科

Aquilegia adoxoides (D.C.) Ohwi ヒメウズ 網室周辺部他, 所々で見かけられる。

Ranunculus japonicus Thunb. ウマノアシガタ(キンポウゲ) 道路端に小数自生する。

Ranunculus quelpaertensis (Léveillé) Nakai キツネノボタン 各所の草地に点在する。

Ranunculus scleratus Linn. タガラシ 農場の水田, 水路端などでよく見かけられる。

Thalictrum minus L. var. *hypoleucum* (Sieb. et Zucc.) Miq. アキカラマツ 雑木林周辺で見られる。

Caryophyllaceae ナデシコ科

Arenaria serpyllifolia Linn. ノミノツヅリ 芝地, 畑地などで見られる。

Cerastium glomeratum Thuill. オランダミミナグサ (アオミミナグサ) 各所の芝地に多い。

Cerastium holosteoides Fries var. *hallaisanense* (Nakai) Mizushima ミミナグサ 芝地に自生。比較的少ない。

Dianthus japonicus Thunb. ハマナデシコ (フジナデシコ) 県道13号線沿いの道端で見られるが少ない。

Sagina japonica (Sw.) Ohwi ツメクサ 畑地や裸地に普通。

Silene armeria Linn. ムシトリナデシコ 栽培植物が逸出。時折出現するが3年程すると周囲の草に被われ消滅。

Silene gallica Linn. シロバナマンテマ 昭和56年車庫の北側駐車場横の草に出現。3年後に消滅。

Silene gallica Linn. var. *quinque-vulnera* (Linn.) Koch. マンテマ 前種と同様昭和56年車庫の洗車場横の草地に出現翌年消滅。

Spergula arvensis Linn. ノハラツメクサ 昭和56年より厚生会館南の牧草地で拡範囲に大群落を作る。牧草の種子に混入してきたものであろう。

Stellaria alsine Grimm var. *undulata* (Thunb.) Ohwi ノミノフスマ

Stellaria aquatica (Linn.) Scop. ウシハコベ 各所の草地に多い。

Stellaria media (Linn.) Villars ハコベ (コハコベ) 前種より少ない。

Portulacaceae スベリヒユ科

Portulaca oleracea Linn. スベリヒユ 畑地など裸地に多い。

Portulaca pilosa Linn. ヒメマツバボタン (ケツメクサ) 畑地, 花壇などで見掛けられるが少ない。

Nyctaginaceae オシロイバナ科

Mirabilis jalapa Linn. オシロイバナ 職員宿舎近くの道路沿いにいくらか移動して毎年出現する。

Aizoaceae ツルナ科

Mollugo pentaphylla Linn. ザクロソウ 各所で見られる。

Tetragonia tetragonoides (Pall.) O. Kuntze ツルナ ガラス室周辺に多い。ウイルスの指標植物として栽培中のものが逸出。

Phytolaccaceae ヤマゴボウ科

Phytolacca americana Linn. アメリカヤマゴボウ (ヨウシュヤマゴボウ) 昭和40年頃と昭和45年頃に出現したが2年程していずれも消滅。

Amaranthaceae ヒユ科

Achyranthes fauriei Lév. et Van. ヒナタイノコズチ 各所に多い。

Achyranthes japonica (Miq.) Nakai イノコズチ (ヒカゲイノコズチ) 雑木林中に自生。

Alternanthera sessilis R. Br. ツルノゲイトウ

Amaranthus lividus Linn. イヌビユ 各所に多い。

Amaranthus patulus Bertoloni ホソアオゲイトウ 各所に多い。

Amaranthus viridis Linn. ホナガイヌビユ (アオビユ) 各所に多い。

Gomphrena globosa Linn. センニチコウ 栽培植物が逸出。

Chenopodiaceae アカザ科

Chenopodium album Linn. シロザ (シロアカザ) 各所に多い。

Chenopodium album Linn. var. *centrorubrum* Makino. アカザ 前種程多くない。

Polygonaceae タデ科

Fagopyrum esculentum Moenck ソバ 農場周辺で、年により出現。

Polygonum aviculare Linn. ミチヤナギ (ニワヤナギ) 農場の水田端に多い。

Polygonum cuspidatum Sieb. et Zucc. イタドリ 雑木林周辺或は敷地周辺部で見られる。

Polygonum filiforme Thunb. ミズヒキ 見本林予定地に少数個体が自生。

Polygonum hydropiper L. ヤナギタデ 農場の水路端でみられる。

Polygonum japonicum Meisn. シロバナサクラタデ 所々で群生する。

Polygonum longisetum De Bruyn イヌタデ 草地に多い

Polygonum orientale Linn. オオケタデ

Polygonum perfoliatum Linn. イシミカワ 4号館北側の水路沿い他所々に分布している。

Polygonum scabrum Moench サナエタデ 各所で見られる。

Polygonum senticosum (Meisn.) Franch. et Savat. ママコノシリヌグイ (トゲソバ) 草地に多い。

Polygonum thumbergii Sieb. et Zucc. ミゾソバ 水路端などで群生する。

Rumex acetocella Linn. ヒメスイバ 昭和57年より日章会館南の芝地に出現。前年度の客土により侵入。4年目にはカラスノエンドウなどに被われ消滅。

Rumex acetosa Linn. スイバ 各所に多数繁殖。

Rumex conglomeratus Murr. アレチギシギシ 近年多くなった。

Rumex crispus Linn. ナガバギシギシ 各所に多い。

Rumex dentatus subsp. *nipponicus* (Fr. et Sav.) Recenger f. コギシギシ 水田の周辺部。

Rumex japonicus Houtt. ギシギシ 各所で見られる。

Loranthaceae ヤドリギ科

Korthalsella japonica (Thunb.) Engler ヒノキバヤドリギ マキの木に寄生。

Urticaceae イラクサ科

Boehmeria longispica Steud. ヤブマオ 昭和57年より図書館北側に出現。

Boehmeria nipponivea Koidz. クサマオ (カラムシ) 各所に分布。

Boehmeria nivea (Linn.) Gaud. マオ (ナンバンカラムシ, モクマオウ) 雑木林周辺部に見られる。

Moraceae クワ科

Fatoua villosa (Thunb.) Nakai クワクサ 各所の草地で見られる。

Ficus erecta Thunb. イヌビワ (イタビ, チチノミ) 雑木林で見られる。

Humulus japonicus Siev. et Zucc. カナムグラ 草地に年々増えつつある。

Morus bombycis Koidz. ヤマグワ (クワ, シマグワ) 雑木林に自生。

Ulmaceae ニレ科

Aphananthe aspera (Thunb.) Planch. ムクノキ (ムクエノキ) 雑木林で見られる。

Celtis sinensis pers. var. *japonica* (Planch.) Nakai エノキ 雑木林中に自生する。

Ulmus parvifolia Jacq. アキニレ 雑木林他かなり拡範囲に多数自生する。

Fagaceae ブナ科

Quercus glauca Thunb. アラカシ 雑木林中に少数自生。

Saururaceae ドクダミ科

Houttynia cordata Thunb. ドクダミ (ジュウヤク) 各所に多い。

Monocotyledoneae 単子葉植物綱

Orchidaceae ラン科

Bletilla striata (Thunb.) Reichb. fil. シラン 実験植物が逸出。昭和57年より網室付近で開花個体が見られるようになった。中には淡紅色の美しい花(2個体)も見られる。

Calanthe striata R. Brown キエビネ ハチク林中に数株あり、昭和55年より開花し始めた。

Cymbidium goeringii (Reichb. fill.) Reichb. fil. シュンラン (ホクロ) 食堂北のクスノキの地上2m程のほころの中に1株着生していたが、取り去られて消失。

Neofinetia falcata (Thunb.) Hu フウラン 旧農学科棟横のクロマツの上の方(地上15m程)に着生していたが、松の木を切り倒したため消失。

Spiranthes sinensis (Pers.) Ames ネジバナ (モジズリ) 校舎周辺の芝地に多い。昭和38年頃は現在のガラス室群の西端辺りにのみ自生していたものが年々東方向に繁殖していった。

Zingiberaceae ショウガ科

Canna generalis Bailey ハナカンナ 農場棟の北の草地、西門附近など数個所で繁殖。栽培植物の逸出であろう。

Hedychium coronarium Koen. ハナシャクシャ (ジンジャー) 西門近くの草地で繁殖。

Zingiber mioga (Thunb.) Roscoe ミョウガ ガラス室周辺などに見られるが、実験植物の逸出したもの。

Iridaceae アヤメ科

Belamcanda chinensis (Linn.) D.C. ヒオオギ 4号館西、職員宿舍南の草地で繁殖。年々個体数が増加する。

Iris japonica Thunb. シャガ 雑木林中で見られる。

Iris pseudoacorus Linn. キショウブ 西門附近に多数繁殖。

Sisyrinchium atlanticum Bickn. ニワゼキショウ 芝地の各所に普通。

Tritonia crocosmaeflora Lemoine ヒメヒオオギズイセン 西門附近など3個所で多数繁殖。

Amaryllidaceae ヒガンバナ科

Crinum asiaticum Linn. var. *japonicum* Baker ハマオモト (ハマユウ) 職員宿舍横の道路横の草地でかなりの個体が繁殖。

Lycoris radiata (L'Herrit.) Herb. ヒガンバナ (マンジュシャゲ) 各所の芝地或は道端の草地に多数繁殖し、年々飛び離れた所に新しく増えていくが、その繁殖径路は不明である。

Lycoris sanguinea Maxim. キツネノカミソリ 旧農学科棟の北側で少数個体自生していたが、改築の際消滅。

Narcissus tazetta Linn. var. *chinensis* Roem. スイセン 職員宿舍寄りの道路沿いの草地で繁殖。栽培植物の逸出による。

Zephyranthes candida Herb. タマスダレ 道路沿いの草地に多い。

Zephyranthes carinata Herb. サフランモドキ 西門附近の道路沿いの草地でかなりの個体が自生する。

Dioscoreaceae ヤマノイモ科

Dioscorea japonica Thunb. ヤマイモ (ヤマノイモ, ジネンジョウ) 雑木林中, 厚生会館北の築山及び農場周辺で見られる。

Liliaceae ユリ科

Alectonurus Yedoensis (Maxim.) Makino ケイビラン 旧農学科北側で自生していたが改築工事により消失。

Allium grayi Regel ノビル 各所に多数分布する。

Allium tuberosum Rottl. ニラ 実験植物の逸出。ガラス室やビニールハウスの周辺の草地で見られる。

Brodiaea uniflora Engler ハナニラ (セイヨウアマナ) 栽培植物が逸出。昭和47年頃にはかなり繁殖していたが、スイバやカモジグサなどが被うようになり、消失。

Heloniopsis orientalis (Thunb.) Tanaka var. *flavida* (Nak.) Ohwi シロバナショウジョウバカマ 旧農学科北側のやや湿った所で自生していたが、校舎の改修により消滅。

Hemerocallis fulva Linn. var. *kwanso* Regel. ヤブカンゾウ (オニカンゾウ) 道路沿いの草地及び芝地に数個所で見られる。

Hemerocallis fulva Linn var. *littorea* (Makino) M. Hotta ハマカンゾウ 車庫附近の道路沿い及び職員宿舎横で繁殖。

Lilium × *formolongo* hort. シンテッポウユリ 昭和38年頃に栽培のものが逸出。現在では拡範囲にかなりの個体数が分布し、2 mを越える大きな個体もある。最初の中はテッポウユリに近いものもあったが、最近ではタカサゴユリの形質の強いものが多くなった。

Lilium japonicum Thunb. ササユリ 栽培植物が逸出。昭和55年より開花し3年後に消滅。

Lilium lancifolium Thunb. オニユリ 県道13号線に沿った土手で多数開花個体が見られる。

Liriope platyphylla Wang et Tanq. ヤブラン ハチク林内で見られるが少ない。

Metanarthecium luteo-viride Maxim. ノギラン 雑木林横の道路端で見られたが、最近見られなくなった。

Ophiopogon japonicus (Linn. fil.) Ker-Gawl. ジャノヒゲ (リュウノヒゲ) 旧農学科校舎の改築の際消失。現在では、職員宿舎南の道路端などで見られる。

Ornithogalum corymbosum Ruiz et Pav. オーニソガラム・コリンボスム 栽培のものが逸出。1号館横に離れて2個所で繁殖。アサファルトの割れ目から生えているものもある。

Polygonatum odoratum (Mill.) Druce var. *pluriflorum* (Mig.) Ohwi アマドコロ 斑入の栽培植物が逸出。職員宿舎横の道路端で見られる。

Scilla nonscripta Hoffm. et Link シラー・ノンスクリプタ 栽培植物が逸出。4号館北の竹林横の草地で10株程繁殖し、栽培種は花色が空色のものが白色から濃青色、ピンクなど形質が分離して昭和48年頃より野生化していたが、昭和59年整地のため消滅した。

Scilla scilloides (Lindl.) Druce ツルボ 車庫横の砂地で繁殖。最近ではその近くの芝布内にも見られる。

Tricyrtis affinis Makino ヤマジノホトトギス 職員宿舎近くの土手の北側のやや湿った所に数株が群生。

Juncaceae イグサ科

Juncus effusus L. var. *decipiens* Buchen. イ (トウシンソウ) 年により水路中で見られる。

Juncus tenuis Willd. クサイ (シラネイ) いたる所に多い。

Luzula capitata (Mig.) Mig. スズメノヤリ (スズメノヒエ) 芝地内に多い。

Pontederiaceae ミズアオイ科

Eichhornia crassipes Solms ホテイアオイ 水路に進入してくるもので、人の手により除去され消滅しては又、繁殖を繰り返す。

Monochoria vaginallis (Burm. fil.) Presl var. *plantaginea* (Roxb.) Solms-Laub. コナギ (ミズナギ) 農場の水田内に繁殖している。

Commelinaceae ツユクサ科

Commelina benghalensis Linn. マルバツユクサ 各所に多い。

Commelina communis Linn. ツユクサ (ツキクサ) 各所で見られるが、マルバツユクサほど多くない。

Pollia japonica Thunb. ヤブミョウガ 雑木林の北端で繁殖。

Tradescantia flumiensis Vell. ノハカタカラクサ (トキワツユクサ) 雑木林の北側で見られる。

Lemnaceae ウキクサ科

Spirodela polyrhiza (Linn.) Schleid. (*Lemna polyrhiza* L.) ウキクサ 貯水地、水田で見られる。

Araceae サトイモ科

Acorus calamus Linn. var. *angustatus* Bess. ショウブ 4号館北側の水路内で繁殖していたが、コンクリートで水路が改修された際消失。それより移植したものが厚生会館北の池端で育っている。

Pinellia ternata (Thunb.) Breitenb. カラスビシャク (ハンゲ) 個体数は少ないが各所で見られる。

Pinellia ternata (Thunb.) Breitenb. forma *atropurea* (Makino) Ohwi ムラサキハンゲ 北側の境界のブロック塀に沿った草地内で見られるが、極く少ない。

Palmae ヤシ科

Trachycarpus fortunei (Hook.) H. Wendl. シュロ 北側のハチク林中に自生。個体数は多くない。

Cyperaceae カヤツリグサ科

Carex breviculmis R. Br. アオスゲ 農場北の草地などで見られる。

Carex dimorpholepis Steud. アゼナルコスゲ 4号館北側の水路端などで見られる。

Carex doniana Spreng シラスゲ 農場西側の草地などで見られる。

Carex gibba Wahlenb. マスクサスゲ (マスクサ) 各所に多い。

Carex idzuroei Franch. et Savat. ウマスゲ 農場周辺などで見られる。

Carex ischnostachya Steud. ジュズスゲ 雑木林周辺など最近ふえてきた。

Carex japonica Thunb. ヒゴクサ 農場周辺で見られる。

Carex lenta D. Don ナキリスゲ センダン並木の道路端などに自生。

Carex rochebrunii Franch. et Savat. ヤブスゲ 雑木林など樹木下で見られる。

Carex rugata Ohwi クサスゲ 農場北側草地の、やや凹地となって湿った芝地で見られる。

Carex transversa Boott ヤワラスゲ 所々で見られる。

Cyperus compressus Linn. クグガヤツリ 食堂周辺の草地など、昭和56年頃より見られるようになった。

- Cyperus cyperoides* (Linn.) O. Kuntze イヌクグ (クグ, アオクグ)
Cyperus difformis Linn. タマガヤツリ 農場の水田で見られる。
Cyperus globosus Allioni アゼガヤツリ 農場の水田沿いに見られる。
Cyperus iria Linn. コゴメガヤツリ 畑地, 芝地などに自生。
Cyperus microiria Steud. カヤツリグサ 各所に多い。
Cyperus orthostachyus Franch. et Savat. ウシクグ 食堂周辺の芝地, 草地などで見られる。
Cyperus rotundus Linn. ハマスゲ 農場から雑木林にかけての道路沿いの草地。
Cyperus serotinus Rottb. ミズガヤツリ 農場の水田の周辺に自生。
Cyperus tenuispica Steud. ヒメガヤツリ (ミズハナビ) 農場周辺などに点在する。
Eleocharis kuroguwai Ohwi クログワイ 農場横の水路中に自生。
Fimbristylis dichotoma (Linn.) Vahl テンツキ 林学科の圃場, 畑地などで見られる。
Kyringia brevifolia Rotth. subsp. *leiolepis* (Fr. et Sav.) T. Koyama ヒメクグ 農場の畑地などで見られる。
Scirpus juncoides Roxb. subsp. *hotaru* (Ohwi) T. Koyama ホタルイ 各所で見られる。
Scirpus triqueter Linn. サンカクイ 昭和59年農場の水路端に出現。

Gramineae イネ科

- Achnatherum pekinense* (Hance) Ohwi ハネガヤ 昭和59年農場の牧草地沿いに出現。
Agropyron ciliare (Trin.) Franch. var. *minus* (Mig) Ohwi アオカモジグサ 各所に分布。
Agropyron tsukushiense (Honda) Ohwi var. *transiens* (Hack.) Ohwi カモジグサ 各所に多い。
Agropyron tsukushiense (Honda) Ohwi var. *tsukushiense* Ohwi オニカモジ 昭和57年宿舎のブロック塀沿いの草地で数株発見。
Agrostis alba Linn. コヌカグサ 西門近くの野地などで見られる。
Agrostis clavata Trin. var. *nukabo* Ohwi ヌカボ 芝地, 道路端などに自生。
Agrostis nigra With. クロコヌカグサ 昭和55年頃より4号館南の芝地に出現。
Alopecurus aequalis Sobol. var. *amurensis* (Komar.) Ohwi スズメノテッポウ 各所に多い。
Alopecurus japonicus Steud. セトガヤ 車庫の洗車場近くの芝地に昭和55年頃より出現。
Andropogon virginicus Linn. メリケンガルカヤ 昭和60年農場の道路端に出現。
Anthoxanthum odoratum Linn. ハルガヤ 農場の牧草地周辺で見られる。
Arthraxon hispidus Makino コブナグサ 各所に多い。
Arundinella hirta (Thunb.) C. Tanaka トダシバ 西門附近, 農場の道路沿いで見られる。昭和58年頃より急増した。
Arund donax Linn. var. *versicolor* (Hill.) Stokes セイヨウダンチク (斑入種) 職員宿舎附近に昭和38年頃より増殖している。おそらく栽培植物の逸出。
Avena fatua Linn. カラスムギ 年により出現するが, 1~2年で消滅。
Avena sativa Linn. オートムギ (マカラスムギ) 年により出現するが2年程で消滅。栽培植物の逸出。
Beckmannia syzigachne (Steud.) Fernald ミノゴメ (カズノコグサ) 農場の水田周辺に多い。
Briza maxima Linn. コバンソウ 栽培植物の逸出。
Briza minor Linn. ヒメコバンソウ (スズガヤ) 各所に分布。
Bromus catharticus Vahl イヌムギ 全域に多い。

- Bromus commutatus* Schrad. ムクゲチャヒキ 農場北側の草地に自生。
- Bromus japonicus* Thunb. スズメノチャヒキ 道路沿いの草地で見られる。
- Bromus tectorum* Linn. ウマノチャヒキ 昭和57年頃放牧場周辺部に出現。
- Coix lacryma-Jobi* Linn. ジュズダマ (トウムギ) 水路沿いの草地に多い。
- Cynodon dactylon* (L.) Persoon ギョウギシバ 農場周辺部に自生する。
- Dactylis glomerata* Linn. カモガヤ 放牧場周辺の草地で見られる。昭和56年頃より出現。
- Digitaria sanguinalis* (L.) Scopoli メヒシバ 各所に多い。
- Digitaria tunorensis* (Kunth) Balansa コメヒシバ 各所に多い。
- Digitaria violascens* Link アキメヒシバ 各所に多い。
- Echinochloa crus-galli* Beauv. var. *caudata* Kitagawa ケイヌビエ (クロイヌビエ) 農場の水田に多い。
- Echinochloa crus-galli* (Linn.) Beauv. var. *crus-galli* イヌビエ 農場の水田で普通に見られる。
- Eleusine indica* (L.) Gaertner オヒシバ 草地に多い。
- Eragrostis cilianensis* (Allioni) Vignolo-Lutati スズメガヤ (オオスズメガヤ) 実験圃場の周辺部。
- Eragrostis curvula* (Schrad.) Nees シナダレスズメガヤ 昭和54年より4号館南の芝地に出現。
- Eragrostis ferruginea* (Thunb.) Beauv. カゼクサ 道路沿いの草地で見られる。
- Eragrostis multicaulis* Steud. ニワホコリ 芝地で見られる。
- Eragrostis pilosa* (L.) Beauv. オオニワホコリ 道路沿いの草地に多い。
- Eragrostis poaeoides* P. Beauv. ex Roem. et Schult. コスズメガヤ 道路横の草地で見られる。
- Eriochloa villosa* (Thunb.) Kunth ナルコビエ 農場の道路端に自生する。
- Festuca parvigluma* Steud. トボシガラ 雑木林周辺などで見られる。
- Hordeum vulgare* Linn. var. *hexastichon* Aschers. オオムギ 栽培植物の逸出。
- Imperata cylindrica* (L.) P. Beauv. var. *Koenigii* (Retz.) Durand et Schenz チガヤ (ツバナ、フシゲチガヤ) 各所に多い。
- Leptochloa chinensis* (L.) Nees アゼガヤ 農場の水田周辺で見られる。
- Lolium hybridum* Hausskn. ネズミホソムギ 4号館西の道路端などでネズミムギやホソムギなどと混生していたが最近見られなくなった。
- Lolium multiflorum* Lamarck ネズミムギ 各所に多い。
- Lolium perenne* Linn. ホソムギ 放牧場の道路端などで見られる。
- Microstegium viminea* (Trin.) A. Camus var. *polystachyum* (Franch. et Sawat.) Ohwi アシボソ 雑木林で見られる。
- Miscanthus sinensis* Anderss. ススキ 各所に多い。
- Miscanthus sinensis* Anderss var. *gracillimus* Hitchc. イトススキ 昭和60年より小動物実験室近くの草地に出現。
- Oplismenus undulatifolius* (Ard.) Roemer et Schultes チヂミザサ (ケチヂミザサ) 雑木林周辺で見られる。
- Panicum bisulcatum* Thunb. ヌカキビ 昭和55年頃よりよく見られるようになった。
- Paspalum dilatatum* Poir. シマスズメノヒエ 草地に多い。
- Paspalum distichum* Linn. キシュウスズメノヒエ (カリマタスズメノヒエ) 昭和58年より

農場内の道路端に出現，年々繁殖し自生地が広まっている。

Paspalum notatum Flugge Bahia grass. バビア・グラス

Paspalum thunbergii Kunth スズメノヒエ 芝地内に多い。

Paspalum urvillei Steud. タチスズメノヒエ 各所で多い。

Pennisetum alopecuroides (L.) Spreng チカラシバ 道路端の草地に多い。

Phalaris arundinacea Linn. クサヨシ 水路沿いで見られる。昭和55年頃より出現。

Phalaris canariensis Linn. カナリークサヨシ (カナリヤクサヨシ, ヤリクサヨシ) 昭和63年職員宿舎横の草地に出現。

Phragmites communis Trin. ヨシ 農場横の草地2個所で見られるが少ない。

Phyllostachys nigra (Loddiges) Munro var. *henonis* (Bean) Stapf. ハチク 雑木林の2個所で竹藪を形成。

Poa acroleuca Steud. ミゾイチゴツナギ 道路横の草地に自生するが少ない。

Poa acroleuca Steud. var. *submoniliformis* Honda タマミゾイチゴツナギ

Poa annua Linn. スズメノカタビラ 各所に多い。

Poa pratensis Linn. ナガハグサ 道路横の草地で見られる。

Poa sphondylodes Trin. イチゴツナギ (ザラツキイチゴツナギ) 農場の道路端などでよく見かけられる。

Poa trivialis Linn. オオスズメノカタビラ 農場の水路横の草地に自生。

Polypogon fugax Steud. ヒエガエリ 畜舎横の草地に自生する。

Polypogon monspeliensis (L.) Desf. ハマヒエガエリ 農場横の草地に自生。

Sacciolepis indica (L.) Chase var. *oryzetonum* (Makino) Ohwi ヌメリグサ 農場の水田。

Setaria faberi Herrm. アキノエノコログサ 各所に普通に見られる。

Setaria glauca (L.) Beauv. キンエノコロ 各所に多い。

Setaria pallide-fusca (Schumach.) Stapf et C. E. Hubb. コツブキンエノコロ 農場の道路端に自生。

Setaria × *pyncocoma* Henr. ex Nakai オオエノコログサ (アワ×エノコログサ) 車庫北側の草地に多い。

Setaria viridis (L.) Beauv. エノコログサ (ネコジャラシ) 全圃の草地に普通。

Sorghum bicolor Moench モロコシ (モロコシキビ, タカキビ) 農学部北側に隣接する農地より年により逸出してくる。

Sporobolus fertilis (Steud.) W. Clayton ネズミノオ 4号館南の芝地に多数自生。

Themeda triandra Forssk. var. *japonica* (Willd.) Makino メガルカヤ (カルカヤ) 運動場西端の草地に毎年出現。

Triticum aestivum Linn. コムギ 年により自生地が移動する。

Trisetum bifidum (Thunb.) Ohwi カニツリグサ 草地の所々で見られる。

Zea mays Linn. トウモロコシ 実験植物の逸出。年により出現するがその都度1年で消滅。

Zoisia japonica Steud. シバ 裸地に多い。

Zoisia tenuifolia Willd. コウライシバ 裸地の所々に自生。芝布地からの逸出。

Alismataceae オモダカ科

Sagittaria pygmaea Mig. ウリカワ 農場の水田中に普通。

Gymnospermae 裸子植物亜門

Podocarpaceae マキ科

Podocarpus nagi (Thunb.) Zoll. et Moritz. ナギ 職員宿舍の南の林中に多数自生。

Cycadaceae ソテツ科

Cycas revoluta Thunb. ソテツ 1号館南の築山のソテツの大株の周辺に多数が自生。人により持ち去られることが多い。

Pteridophyta 羊歯植物門

Polypodiaceae ウラボシ科

Lepisorus thunbergianus Kaulf. ノキシノブ 各所のクスノキ、センダン、ソメイヨシノなどの幹に多く見られる。

Pyrrosia lingua (Thunb.) Farwell ヒトツバ カナリーヤシの幹に繁殖している。

Aspleniaceae チャセンシダ科

Asplenium incisum Thunb. トラノオシダ 防空壕入口附近の壁面に自生する。

Asplenium oligophlebium Baker カミガモシダ 栽培のものから逸出、しかし3年程して周辺の雑草が繁り出し消滅。

Blechnaceae シシガシラ科

Blechnum niponicum (Kunze) Makino シシガシラ 排水路に沿って未利用地の路肩部にかなり繁殖していたが、排水路の改修工事によりコンクリート化してからは、殆んど見られなくなった。

Woodwardia orientalis Swartz コモチシダ 栽培植物より逸出。ガラス室附近に3株自生していたが、除草の際抜き去られ消滅。

Gleicheniaceae ウラジロ科

Dicranoteris linearis (Burm. fil.) Underw. コシダ 農場の南西の境界近くで見られる。

Aspidiaceae オシダ科

Cyclosorus acuminatus (Houtt.) Nakai ホシダ 雑木林周辺で見られる。

Athyrium japonicum (Thunb.) Copel. シケシダ 各所に多い。

Onoclea sensibilis Linn. コウヤワラビ 雑木林周辺部に群生していたが、整地により最近見られなくなった。

Phanerophlebia fortunei (J. Smith) Copel. ヤブソテツ 雑木林中の2個所にあったものは伐採により消滅、しかし最近裏門横の並木の下に見られるようになった。

Davalliaceae シノブ科

Davallia mariesii Moore シノブ 昭和51年頃より3号館南のカナリーヤシの幹に着生繁殖していたが、昭和60年頃に誰か人の手により取り去られた。

Nephrolepis auriculata (L.) Trimen タマシダ ガラス室南の雑木林横に自生するが、おそらく栽培のものが逸出したのであろう。尚、大学より西方或は北東に4~5 km離れた丘陵地では多数自生している所があるので、風による胞子の飛来も考えられなくはない。

Pteridaceae ワラビ科

Dennstaedtia hirsuta (Swartz) Mett. イヌシダ 1号館南の石垣に見られる。

Onychium japonicum (Thunb.) Kunze タチシノブ 雑木林横で見られたが整地により消滅。

Pteridium aquilinum (L.) Kuhn var. *latiusculum* (Desv.) Underw. ワラビ 昭和40年頃より図書館横の築山と車庫横の芝地で繁殖を続けている。

Pteris cretica Linn. オオバノイノモトソウ 昭和54年より厚生会館の北側に自生。

Pteris cretica Linn. var. *albolineata* Hort. ex Hook. マツザガシダ ラン類の植木鉢に生えていたものより逸出したものと思われる。

Pteris dispar Kunze アマクサシダ 雑木林横に自生。

Pteris multifida Poir. イノモトソウ 個体数としてはそれ程多くないが、各所の日陰の湿った所に見られる。

Pteris vittata Linn. モエジマシダ 栽培植物からの逸出。ガラス室附近で数株が昭和51年より繁殖を続けていたが昭和56年の寒波により絶滅した。

Sphenomeris chinensis (L.) Maxon ホラシノブ 昭和40年頃は旧農学科北側で多く見られたが、校舎の改築により絶滅、現在は図書館南の旧防空壕入口付近などでいくらか見られる。

Schizaeaceae カニクサ科

Lygodium japonicum (Thunb.) Swartz カニクサ 校内各所で見られる。

Ophioglossaceae ハナヤスリ科

Ophioglossum nipponicum Miyabe et Kudo コハナヤスリ 正門近くの芝布内に多数繁殖していたが、昭和50年頃より芝地に大型の雑草が繁殖し始めてから見られなくなってしまった。

Equisetaceae トクサ科

Equisetum arvense Linn. スギナ いたる所に繁殖し、春先には各所で「つくし」が林立する。

Equisetum hyemale Linn. トクサ 職員宿舎で栽培されていたものからの逸出。

Equisetum palustre Linn. イヌスギナ 旧農学科の北側に自生していたが校舎の改築以来殆んど見られなくなった。

Equisetum ramoissimum Desf. var. *japonicum* Milde イヌトクサ 昭和40年頃までは玄関正面の築山の周辺部で見られただけであったが、最近では各所で多数繁殖している。

要 約

高知県南国市に所在する高知大学農学部構内に自生する顕花植物、裸子植物及びシダ植物についての調査を行った。その結果、昭和38年より昭和63年の間に、校内に自生したことが確認された高等植物は、双子葉植物 60科, 218属, 322種, 1亜種, 36変種, 9品種; 単子葉植物 15科, 92属, 138種, 2亜種, 20変種; 裸子植物 2科, 2属, 23種, 1変種; シダ植物 10科, 20属, 23種, 1変種の計87科, 332属, 485種, 3亜種, 57変種, 9品種の他、未同定4種と、平野部にある1大大学構内としては予想以上の多くの植物が、かつて生存し、現在生育していることが明らかとなった。

特に最近10年程の間に、数多くの種が新しく校内に出現してきたのが目立った。その中には2~3年で見られなくなったものも多かったが、逆に急速に分布を広げているものもかなり認められた。この近年の校内における野生種の急増は、農学部構内に肉牛の放牧場が昭和49年に造成され、飼料作物の種子が多量に播かれるようになったこと; 校内各所で芝布が造成され、その際の客土中に種子が混入されてきたこと; 職員や学生のマイカー族の急増による遠隔地からの種子の搬入などが、種の侵入に大きく影響しているものと考えられた。

文 献

- 1) 北村四郎・村田 源: 原色日本植物図鑑, 草本編 I-III. 保育社, 大阪 (1954-'64).
- 2) 北村四郎・村田 源: 原色日本植物図鑑, 木本編 I, II. 保育社, 大阪 (1971, '79).
- 3) 倉田 悟: 日本のシダ植物図鑑 I-V. 東大出版, 東京 (1979-1987).

- 4) 牧野富太郎：牧野新日本植物図鑑. 北隆館, 東京 (1961).
- 5) 正宗巖敬：日本の植物VI. 高陽書院, 東京 (1974).
- 6) 光田重幸：しだの図鑑. 保育社, 大阪 (1974).
- 7) 日本の植物刊行会編：日本の植物Ⅷ. 高陽書院, 東京 (1969).
- 8) 沼田 真・吉沢長人：新版日本原色雑草図鑑. 全国農村教育協会, 東京 (1975).
- 9) 大井次三郎：改訂増補新版 日本植物誌, 顕花編. 至文堂, 東京 (1978).
- 10) 大井次三郎・中池敏之：日本植物誌, シダ編. 至文堂, 東京 (1978).
- 11) 長田武正：日本帰化植物図鑑. 北隆館, 東京 (1972).
- 12) 長田武正：原色野草観察検索図鑑. 保育社, 東京 (1981).
- 13) 佐竹義輔他編：日本の野生植物Ⅰ-Ⅲ. 平凡社, 東京 (1981-'82).
- 14) 田川基二：原色日本羊歯植物図鑑. 保育社, 大阪 (1958).
- 15) 高橋秀男他編：生物大図鑑, 植物Ⅰ, Ⅱ. 世界文化社, 東京 (1984).
- 16) 奥山春季：寺崎日本植物図譜. 平凡社, 東京 (1977).
- 17) 奥山春季：新訂増補原色日本野外植物図譜Ⅰ-Ⅲ. 誠文堂新光社, 東京 (1982-'84).
- 18) 赤澤時之：高知県産帰化植物について. 高知県の植物, No. 1, 48-69 (1978).
- 19) 大久保一治：土讃線開通当時の高知県産帰化植物. 土佐の博物, No. 6, 28-37 (1938).
- 20) 山中二男：高知県の植生と植物相, 461 pp. 林野弘済会高知支部, 高知 (1978).

(昭和63年9月29日受理)

(昭和63年12月27日発行)

Plate 1 - 12. Wild plants on the campus of Kohchi University. PL. 1. *Taraxacum albidum* Dahlst. forma *sulfureum* (H. Koidz.) Kitam., PL. 2. *Tetrapanax papyriferum* K. Koch, PL. 3. *Viola verecunda* A. Gray, PL. 4. *Geranium carolinianum* Linn., PL. 5. *Spergula arvensis* Linn., PL. 6. *Mirabilis jalapa* Linn., PL. 7. *Cucumis melo* Linn., PL. 8. *Rubus trifidus* Thunb., PL. 9. *Citullus vulgaris* Schrad., PL. 10. *Lycoris radiata* (L'Herrit) Herb. forma *alba*, PL. 11. *Iris pseudoacorus* Linn., PL. 12. *Sisyrinchium atlanticum* Bickn..

PL. 1.

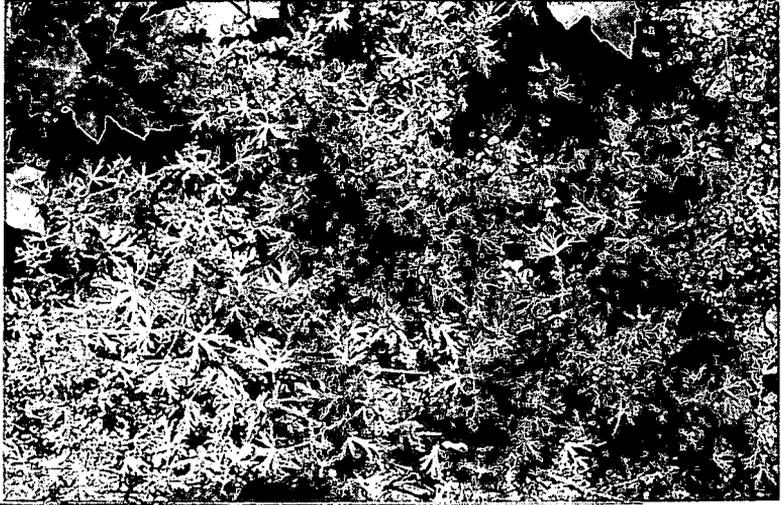


PL. 2

PL. 3



PL. 4



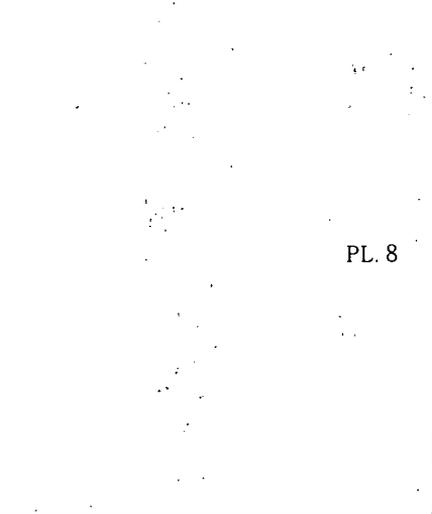
PL. 5

PL. 6

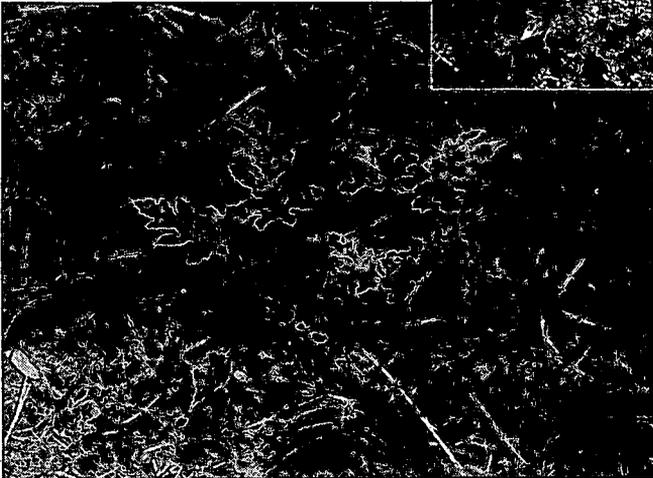




PL. 7

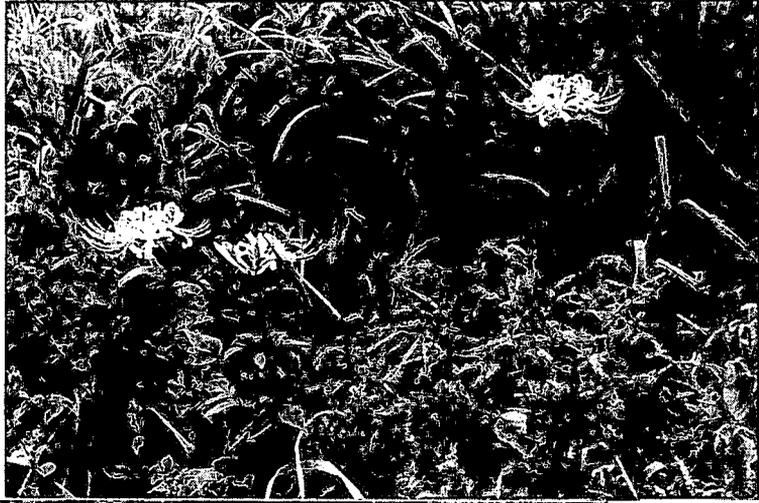


PL. 8

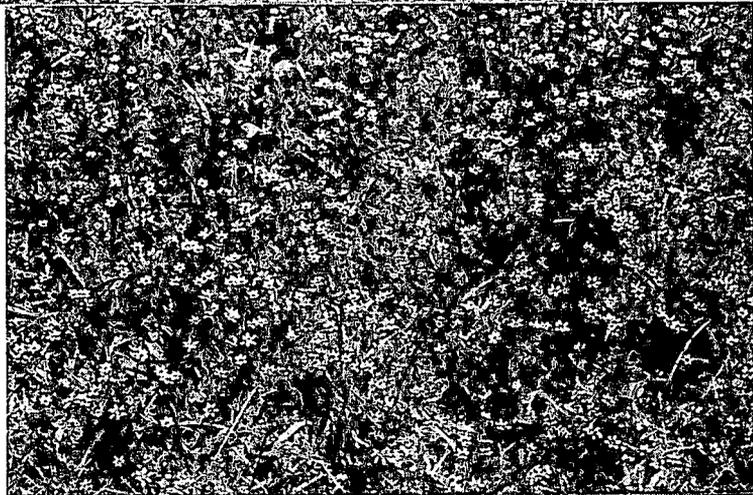


PL. 9

PL. 10



PL. 11



PL. 12